

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1	独立行政法人酒類総合研究所
題名(原題/訳)	
Alcohol consumption and mortality among middle-aged and elderly Japanese men and women. (中年および高齢の日本人男性と女性におけるアルコール摂取量と死亡率)	
執筆者	
Lin Y, Kikuchi S, Tamakoshi A, Wakai K, Kawamura T, Iso H, Ogimoto I, Yagyu K, Obata Y, Ishibashi T; The JACC Study Group.	
掲載誌(番号又は発行年月日)	
Ann Epidemiol. 2005 Sep;15(8):590-7.	
キーワード	
前向きコホート研究、アルコール摂取、死亡率	
要旨	
<p>西洋先進工業国では軽度～中程度の飲酒が全死亡率、特に循環器疾患による死亡率を減少させることが示されているが、日本では明らかにされていない。今回、筆者らは中年および高齢の日本人男性と女性におけるアルコール摂取量と死亡率の関係を調べるために前向きコホート研究を行った。1988-1990年に110,792人の40-79歳の日本人男性と女性から質問票を用いてアルコール摂取状況を把握し、1999年12月31日まであらゆる原因による死亡率をあらわした全死亡率を調べた。Coxの比例ハザードモデルで非飲酒者の全死亡率に対する相対的リスク(RR)を算出した。1日当りアルコール換算0.1-22.9g摂取(約2杯分に相当)をしている現飲酒者である男性と女性の両方で全死亡率が最低となった(男性のRRは0.80、女性のRRは0.88)。1日当りアルコール換算69g以上を摂取する男性では癌、循環器疾患、負傷、その他の外因による死亡率が上昇した。一方、1日当りアルコール換算0.1-22.9g以下を摂取する現飲酒者の男性では癌による、女性では循環器疾患による死亡率が明らかに減少していた。喫煙も飲酒もしない人と比較して、喫煙をしないが1日当りアルコール換算0.1-22.9g以下摂取する男性の全死亡率は顕著に低く、RRは0.50であった。以上より、日本においても1日当りアルコール換算0.1-22.9g以下の飲酒が全死亡率を減少させることが示された。</p>	